

見積り仕様書一覧【印刷物】

次に掲げる物件について、見積書(税抜)を福山市上下水道局管財契約課へ契約番号ごとに提出してください。

詳細仕様書、見本等は福山市上下水道局管財契約課に申し出て配布を受けることができます。

※FAXの場合、見積書提出専用番号 : (084)928-1631

※電子メールの場合、見積書提出専用アドレス : kanzai-keiyaku@city.fukuyama.hiroshima.jp

公開日	2025年(令和7年)4月18日(金)
質問書提出期限	2025年(令和7年)4月22日(火) 17:15
見積書提出期限	2025年(令和7年)4月24日(木) 17:15

契約番号	品名
65	パンフレット「福山通水100周年 記念パンフレット」

印刷物仕様書

契約番号

65

品名	パンフレット「福山通水100周年 記念パンフレット」	
印刷単位	400冊 (1冊あたり12枚)	
納入期限	2025年 7月 31日	
規格	A4判	仕上寸法 210mm×297mm
紙質	マット110K	
印刷方法	オフセット印刷 ※原稿からのダイレクト製版は認めません	
刷り方	両面刷	
刷り色	カラー印刷	
校正	要校正(3回)	
穴あけ	不要	
製本方法	中綴じ製本 針金とじ2か所	
印刷単位	A4版 12ページ(表紙・裏表紙を含む。)	
特記事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 仕上寸法(JIS等)に注意すること。 2 仕様書及び見本を参考にしてもなお不明な点がある場合は、担当の指示を受けること。 3 校正は、文面、配置、色校正を含め3回とし、印刷物を責任校正した後の重大な過ちの対策は、受注者の負担とする。校正場所は上下水道総務課とする。 4 データ渡しは、PDF形式及びワード形式又はエクセル形式のCD-Rで2枚とする。修正箇所については、ワード型式又はエクセル型式のデータ渡し又は原稿渡しとする。 5 詳細はページ毎にその都度、指示する。 6 デザインは統一感を持たせ、見やすく明るいイメージで作成すること。 	



安心・安全な福山の 水道を次世代へ

2025年(令和7年)7月
福山市上下水道事業管理者 小川 政彦

福山市の水道事業は、2025年11月に100周年という大きな節目を迎えます。市の発展とともに、6次にわたる拡張事業を経ながら、現在に至るまで安心・安全な水道水を安定的に供給できたことは、近代水道の創設と発展に携わってきた先人たちの努力と関係者の皆さまのご理解とご協力の賜物であり、この場を借りて、心より感謝申し上げます。

福山近代水道の発祥の地、旧佐波浄水場 配水池の記念額には「不舎晝夜(ふしゃちゅうや)」の文字が掲げられています。この文字には、昼も夜も断水がないことを意味するとともに、上水道建設の苦勞、喜び、福山の永遠の発展、市民が幸福に暮らすことへの思いが込められています。近代水道の創設に当たり、「水道市長」とも呼ばれた初代阿武信一市長が将来にわたる強い意志を示したもので、福山近代水道の原点となるものです。

時は経ち、創設当時約49kmだった福山市の水道管は、現在2,800kmまで増えましたが、このうち、法定耐用年数を経過した管路延長も800kmを超えており、施設の更新や耐震化は大きな課題です。水道事業は未来と共にあゆみ続けます。これまで先人が築き上げてきた水道施設を未来につなぐために必要な投資を行い、健全な状態で将来世代に引き継いでいくことも、我々の使命の一つだと考えています。

「不舎晝夜」の思いを引き継ぎ、安心・安全でしなやかな水道事業を次の100年に引き継いでいくため、効率的で持続可能な事業経営に取り組んでまいります。



旧佐波浄水場配水池
※国の登録有形文化財(建造物)



記念額(配水池入口)
「孟子」の一節「源泉混混不舎晝夜」から引用
(意味)「水はその源からこんこんと湧き出て、
昼も夜も休む時がない」

福山市上下水道局

〒720-8526 福山市古野上町15番25号
TEL (084) 928-1525

検索 福山水道100



上下水道局HP



YouTube
(福山市上下水道局)

2025年(令和7年)7月発行

表紙裏

ANNIVERSARY 100周年

これまでも これからも とともに福山水道100年

キャッチフレーズ考案者: 木下 隆太郎 さん
(福山市立福山高等学校教員)



【雨水】
れいにー

【水道】
びほありー

【工水】
こーじ

【下水】
くりん

裏表紙

福山市の水道の歴史

旧水道

全国で5番目に始まった福山水道



水野勝成

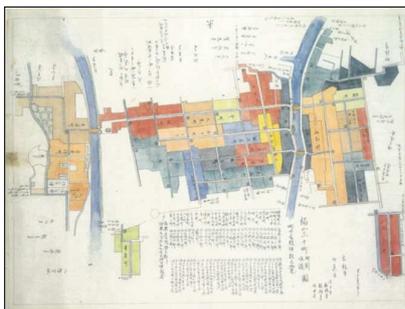
1619年(元和5年)水野勝成が備後10万石の領主となり福山城を築城した際、城下町の建設とともに真っ先に行ったのが飲用水の供給対策としての水道の建設です。16世紀の終わりから17世紀の初めにかけて、諸藩の城下町に設けられた水道の先がけとなり、全国で5番目に建設されたと言われています。

福山の城下町は海に近く、井戸を掘っても海水がでるため、飲用水としては使用できませんでした。そこで、福山城の約2km上流の芦田川から貯水池(通称どんどん池)に水を導き、福山城と城下町の各戸へ土管、木管で配るといったものでした。その水路は、約14kmにも及んでいました。



木管

ます



三十町町制水道図(阿部家時代の兵本文庫より:江戸時代後期)



妙政寺前取水屋門(北吉津町)

近代水道

市制施行と関わりの深い水道建設



初代阿武信一市長

明治時代になると旧水道の老朽化、疫病の流行、町の発展に伴う人口の増加により清浄で豊富な水を大量に供給できる近代水道の創設が望まれました。

そこで、水道布設の財源である国庫補助を受けるために必要であった市制施行(1916年(大正5年)7月1日)とともに、当時の一大事業として近代水道の建設に着手しました。

「水源」の場所や「引水方法」など、経費および技術的な問題について、市議会や市民の間で大論戦が繰り広げられました。

幾多の紆余曲折を経て、延べ32万人の職人を動員し、着工から3年5か月余りの歳月をかけた水道布設の一大工事は、1925年(大正14年)11月15日に完成しました。



熊野貯水池(当時)

登録有形文化財

旧佐波浄水場にある浄水井上屋・配水池・門は2013年(平成25年)3月29日に国の登録有形文化財(建造物)として登録されています。



浄水井上屋



配水池



門

2



歴史の詳細については
ホームページを見てね



検索 福山水道100

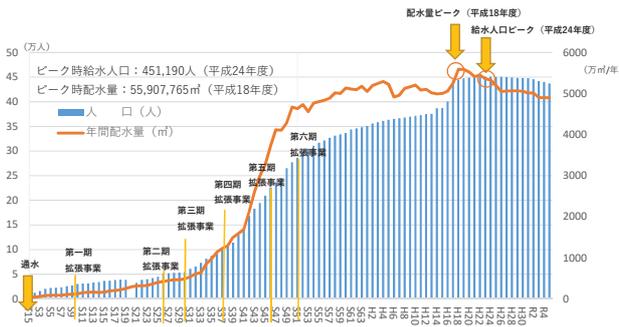
1

近代水道の創設



給水人口と配水量

1925年（大正14年）、通水時の計画給水人口は50,000人、最大給水量は6,250㎥でした。水需要は2006年度（平成18年度）にピークを迎え、配水量は通水当時の約9,000倍に当たる約5,591万㎥にまで増加しました。その後は、給水人口と配水量ともに減少傾向にあります。水道普及率は95.9%となり、ほとんどの市民の皆さまに水道水の供給を行っています。



拡張事業

第一期拡張事業

- 1935年（昭和10年）～
- 芦田川本流河床に集水管を埋設
- 新設の草戸ポンプ所から佐波浄水場へ導水する施設の拡張



草戸ポンプ所

第二期拡張事業

- 1952年（昭和27年）～
- 芦田川右岸の本庄町（現山手町）下中島に浅井戸3基設置
- 揚水ポンプで地下水を取水



本庄水源取水井築造

第三期拡張事業

- 1956年（昭和31年）～
- 出原浄水場の建設
- 合併した新町へ給水開始



出原浄水場の建設

第四期拡張事業

- 1963年（昭和38年）～
- 中津原浄水場の建設
- 千田配水池から市内東南部へ給水



中津原浄水場の建設

第五期拡張事業

- 1972年（昭和47年）～
- 中津原浄水場計画給水量の増強（50,000㎥/日⇒100,000㎥/日）
- 松永地区や簡易水道の上水道への統合
- 島しょ部の走島町への給水開始



走島への海底送水管曳航

第六期拡張事業

- 1977年（昭和52年）～
- 安定給水と合併した地域の施設整備
- 八田原ダム建設による水源の確保
- 千田浄水場の建設



八田原ダム 千田浄水場の建設

福山市の水道の今

福山の水源地

現在の福山市の水源地である一級河川、芦田川は三原市大和町に源を発し、小さな谷をぬいながら下流域の福山へと流れ、瀬戸内海へ注いでいます。流域面積860km²、幹線流路延長は86km、年間降水量は1,400mm程度と全国的に流量の少ない川で、流域全体に人口が密集した「都市河川」です。



浄水場

福山市には6か所の浄水場があります。県用水からの受水量を含め、1日に約134,000㎥の水道水を配水しています。



安心・安全な水道水をみなさまへ

安定的かつ効率的な水運用



中央管理室（中津原浄水場）

保安対策・災害時対応の強化



フィッシュモニター（手原浄水場）



緊急遮断弁（千田浄水場）

水道GLP認定

2007年（平成19年）より4年に1度、日本水道協会が水質の検査結果の精度と信頼性の高さを保証する水道GLPの認定を取得しています。



水質検査の様子



水道GLP



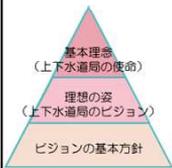
区分	創設当初	通水50年	通水70年	通水98年
	1926年度 (大正15年度)	1975年度 (昭和50年度)	1995年度 (平成7年度)	2023年度 (令和5年度)
給水区域内人口 (人)	34,900	318,150	377,803	456,085
給水人口 (人)	8,800	283,348	366,665	437,582
人口普及率 (%)	25.2	89.1	97.1	95.9
配水量 (㎥)	305,420	47,058,567	49,582,775	48,980,221
1日平均配水量 (㎥/日)	837	128,575	135,472	133,826
有収水量 (㎥)	—	38,468,874	43,313,638	46,213,624
有収率 (%)	—	81.7	87.4	94.4
管路総延長 (m)	49,327	1,407,205	2,135,823	2,838,941

未来へ歩む福山市の水道事業

福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）

策定：2017年度（平成29年度）
改定：2021年度（令和3年度）

水道を取り巻く状況は、この10年で大きく変化しています。節水機器の普及や人口の減少、老朽化した施設の更新や耐震化への投資の必要性、また技術力を持った職員の退職、自然災害の頻発化・激甚化への対応が課題になっています。
こうした背景から、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を目指すため、中長期ビジョン（経営戦略）を策定し、計画的、効率的に事業を行っています。



- 質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献する
- 将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を目指す
- 4本の柱
 - 1 安心・安全でしなやかな上下水道
 - 2 環境にやさしい上下水道
 - 3 市民に信頼される身近な上下水道
 - 4 将来にわたって持続可能な上下水道

①強靱化対策の加速

頻発化・激甚化する自然災害等のリスクに備えるため、計画的・積極的に施設整備を行うことで、強靱化対策を加速化します
・管路の更新・耐震化
・配水池の耐震化 など
○基幹管路の耐震化率
68.6%（2017）⇒ 77.6%（2026）



②危機管理体制の強化

事故や災害発生時における影響を最小限にとどめるため、危機管理体制を強化します
・業務継続計画（BCP）など危機管理マニュアルの見直し
・仮設水槽など資機材・設備の計画的購入



福山市上下水道局は今後も、**質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献していきます。**

ライフラインとしての責任

各地で頻発する地震をはじめ、さまざまな災害に備えて、被害を最小限に抑え、ライフラインを守るための対策を強化しています。

水道管路・施設の耐震化



水道管（耐震管）
布設工事



久松台配水池内部の様子



仮設水槽の備蓄



備蓄している緊急用の資機材

広域連携の推進



備後圏域及び他事業体との連携



備後圏域（7市2町）

水道技術研修センター



初級から専門的な研修まで体験可能な施設

新たな取組への挑戦

水道スマートメーターやAIを活用した水道管路の劣化予測診断など、デジタル技術を活用した実証実験を行っています。今後は、実験結果を検証する中で経費削減や効率的な事業運営などの施策につなげていきます。

水道スマートメーターの検討



実験期間：2023年（令和5年）4月～2025年（令和7年）3月
実験内容：既設の水道メーターに無線通信装置を取り付け、使用水量データを収集
工業用水道順次運用開始：2025年（令和7年）～

デジタル化の推進

【AIを活用した水道管路の劣化予測診断】
2022年度（令和4年度）～2024年度（令和6年度）
試験掘削を行わずに管路情報や様々な環境データにより、AIで機械学習し水道管路の劣化判定を行うもの。



福山市水道史 ～100年のあゆみ～

大正	5年 7月	福山市制施行（人口32,356人）	
	10年 3月	上下水道の布設認可	
	14年 11月	上下水道竣工通水式	
	27年 10月	地方公営企業法適用	
	34年 6月	出原浄水場給水開始	
	42年 6月	中津原浄水場給水開始	
	46年 9月	三川ダム嵩上げ工事完成（5m）	
	昭和	52年 4月	広島県沼田川水道用供水給事業から受水開始
		10月	佐波浄水場休止
		53年 9月	八田原ダム建設に関する基本計画変更告示（上水100,000m ³ /日）
平成	10月	水道メーターの検針委託開始	
	元年 4月	佐波浄水場廃止	
	7年 6月	千田浄水場起工式	
	9年 7月	八田原ダム竣工式	
	10年 4月	中央管理センター開所	
	11年 4月	水道料金及び下水道使用料の徴収一元化	
	15年 2月	内海町・新市町と合併	
	16年 8月	千田浄水場通水開始	
	年 10月	水道技術研修センター（山手町）開所	
	17年 2月	沼隈町と合併	
	18年 3月	神辺町と合併	
19年 6月	水道水質検査優良試験所規範（水道G L P）認定取得		



1994年（平成6年）、福山市では6月から8月にかけて雨がほとんど降らないという厳しい状況が続きました。6月の降雨量は過去10年の平均の38%、7月は14%、8月は24%しかありませんでした。このため、水不足が深刻な問題となりました。

この水不足に対処するため、8月16日から9月29日までの45日間、12時間の断水を実施しました。

断水中に発生しやすい濁った水や赤い水を防ぐために、事前に入念な打ち合わせを行い、慎重に断水作業を進めました。その結果、これらの問題はほとんど発生せず、無駄な水が多量に流れることも防ぐことができ、限られた水を大切に使いながら、水不足の影響を最小限に抑えることができました。



平成	21年 3月	財団法人福山市水道サービス公社解散
	22年 9月	出原浄水場更新事業着工
	24年 4月	水道局と建設局下水道部を組織統合し「上下水道局」となる
	7月	水道施設地震対策基本計画の策定
	25年 3月	旧佐波浄水場の3施設が国の登録有形文化財に登録
	26年 3月	旧佐波浄水場跡地が佐波城山公園として開園
	27年 3月	出張所（東部・西部・北部・神辺）の廃止
	4月	営業関連業務の包括委託
	9月	水質管理センター開所
	11月	上下水道事業のアセットマネジメント（資産管理）の策定
令和	28年 3月	出原浄水場更新工事竣工
	29年 2月	福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の策定
	4月	中津原浄水場外運転及び維持管理業務の民間委託
	12月	水道事業における災害時等発生時の相互応援に関する覚書締結（6市2町）
	2年 4月	営業関連業務等包括委託の拡大（給排水関連窓口業務等）
	4年 3月	福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の改定 水道施設更新耐震化計画
	4年 4月	中津原浄水場外運転管理及び維持管理業務委託の拡大（加圧施設維持管理業務等）
	5年 4月	井原市と水道事業における水質管理業務の共同実施に関する覚書を締結
	6年 5月	上下水道キャラクター誕生
	7年 11月	水道通水100周年



2016年（平成28年）3月、福山市の離島である走島に水道水を供給する海底送水管が、貨物船のいかりと接触して破損し、島民約300世帯、約600人に影響を与えました。

原因究明のため、潜水士による状況調査が行われました。鞆側から約3,300メートル付近、水深約20メートルの位置で、海底送水管が完全に切断されていることが確認されました。また、海底に埋まっているべき管が一部露出しており、本来の埋設位置から150メートルから200メートル東方向へ移動していることが判明しました。さらに、約100メートル分の管が行方不明であることから、老朽化による破損ではないことが判明しました。

復旧までの期間、応急措置として1日1便の給水船で最大650m³の水を補給し、ポンプ所受水槽まで仮設配管を布設して対応しました。復旧は2017年（平成29年）10月に完了しました。

